

事前評価個表

整理番号	12
------	----

地域（地区）名	ちくまがわりゅう 千曲川下流	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	長野県	対象市町村	ながのし 長野市他 14 市町村
事業実施期間	R2 年度 ～ R6 年度（5 年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地区は、長野県の北部に位置し、長野市他 4 市 5 町 5 村で構成され、森林面積は 179 千 ha（森林率 70%）、対象民有林は 130 千 ha（森林全体の 73%）、うちスギ、カラマツを主体とする人工林は 53 千 ha（人工林率 42%）と人工林率は県平均（50%）より低く、天然林が多い地区となっている。</p> <p>本地区の森林は、終戦直後や高度経済成長期に伐採跡地に造林されたものが多く、人工林の齡級構成も高齢級に移行しており、間伐の対象となるⅢ～ⅩⅡ齡級までの人工林が 61% を占め、健全な森林を育成していくうえでも間伐等森林整備が必要となっている。</p> <p>また、主伐期を迎えたⅩⅢ齡級以上の人工林も 38%となっていることから、木材の有効活用及び森林の有する水源涵養等の公益的機能の高度発揮のため、適切な更新と確実な再造林が必要である。</p> <p>本地区では高性能林業機械の保有台数及び雇用日数の増加等、森林整備に必要な作業体系の確立に向けた取組がなされているが、今後、主伐の増加が見込まれることから、低コストかつ確実な再造林が必要となっている。</p> <p>また、路網については、林道密度が 7m/ha、全体計画に対する進捗率は 62%となっており、素材生産量の拡大に向けて、林道の開設や森林作業道等の整備が必要となっている。</p> <p>このため、千曲川下流地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、意欲と実行力を有する林業事業体等による計画的な森林施業の実施を促進し、森林の有する水源涵養等の維持増進を図る必要があることから、本計画に基づき、本事業により効率的な施業に不可欠な林道の整備と再造林や搬出間伐等の森林整備を一体的・計画的に実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：4,331ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐等</p> <p>路網整備：林道 開設 延長 2,492m</p> <p>総事業費：3,816,366 千円（税抜き 3,469,424 千円）</p>
費用便益分析結果	<p>B/C = 4.19</p> <p>（総便益（B）=20,867,154 千円、総費用（C）=4,984,324 千円）</p>
評価結果	<p>必要性：森林の有する水源涵養等の公益的機能の高度発揮のため、森林施業の効率化等による間伐及び再造林等の森林整備や林道の整備が求められており、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性：費用便益分析の結果から十分な効率性が認められるとともに、本事業を活用した計画的な森林整備及び路網整備により、施業地の集約化や生産コストの縮減が図られることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：計画的な森林整備と林道の整備による効率化を推進し、森林資源の有効活用を図るための事業であり、有効性が認められる。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

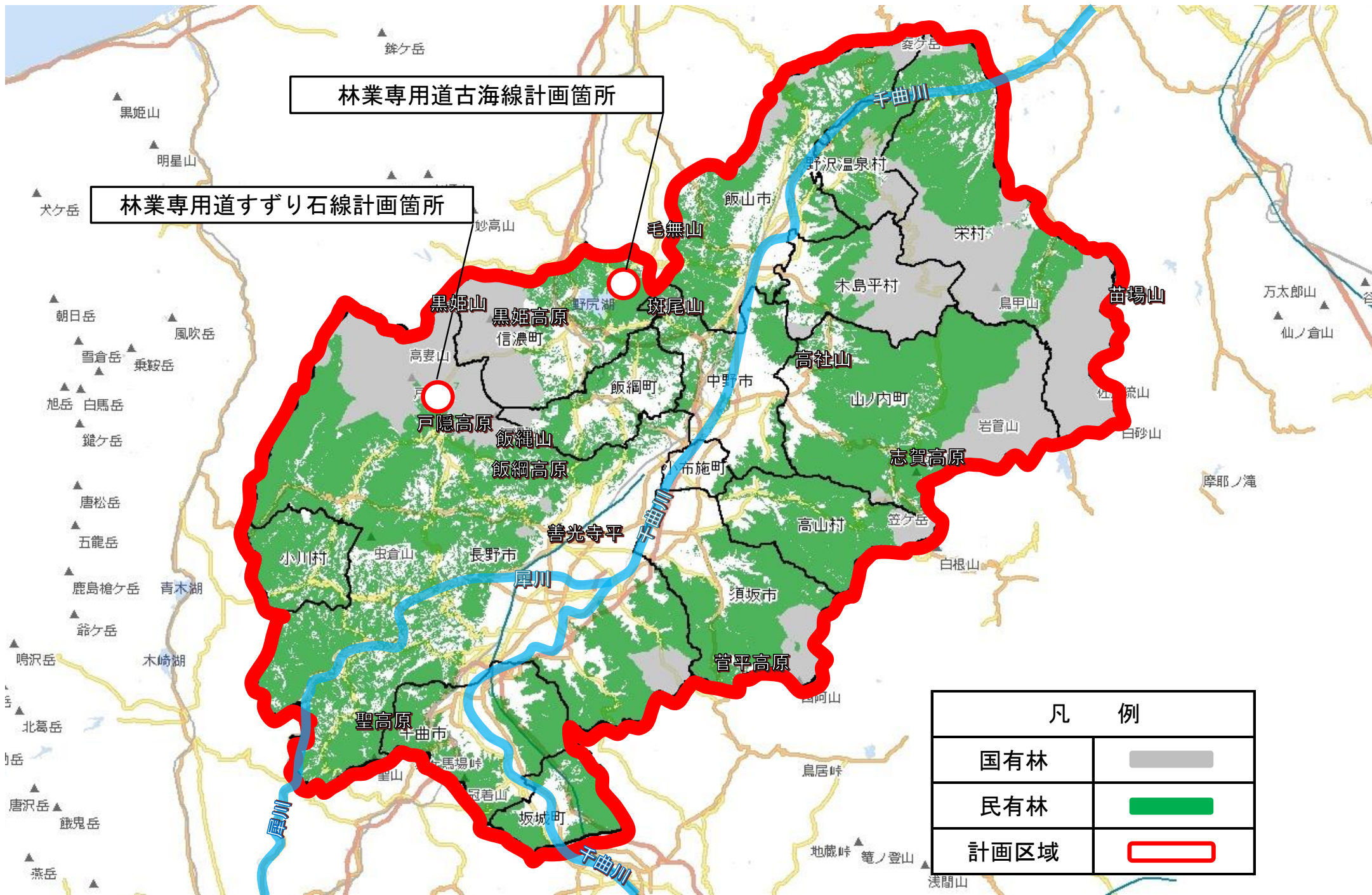
都道府県名：長野県

地域(地区)名：千曲川^{ちくまがわ}下流^{かりゅう}

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源 ^{かん} 涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	4,603,952	
	流域貯水便益	1,525,754	
	水質浄化便益	5,488,765	
山地保全便益	土砂流出防止便益	4,938,230	
環境保全便益	炭素固定便益	3,100,584	
木材生産等便益	木材生産等等経費縮減便益	2,897	
	木材利用促進便益	5,071	
	木材生産確保・増進便益	1,092,242	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	109,659	
総 便 益 (B)		20,867,154	
総 費 用 (C)		4,984,324	
費用便益比	$B \div C = \frac{20,867,154}{4,984,324} = 4.19$		

森林環境保全整備事業 千曲川下流流域（長野県）概要図



凡 例	
国有林	
民有林	
計画区域	